

第12回 教育委員会 会議録

開催日時 平成26年12月18日(木) 午後2時00分

開催場所 大町市役所 庁議室

出席委員 藤井委員長 川上職務代理者 黒田委員 仲原委員

説明者 荒井教育長 橋井教育次長 勝野学校教育課長 沢口生涯学習課長
宮野山岳博物館長 中沢学校教育指導主事
竹内学校教育課長補佐

司会者 藤井委員長

藤井委員長

開会宣言 午後2時00分

第12回教育委員会を開催する。

まず、会議録承認についてである。前回の教育委員会の会議録については、事務局から事前に配布済であるが、承認いただけるか。

全委員

承認

藤井委員長

それでは次に、教育長の報告をお願いします。

荒井教育長

1 諸会議報告 資料に基づき報告。

2 12月定例市議会一般質問についてである。

12月定例市議会では3議員から7項目に渡り質問がなされた。

まず、平成28年度に開校する大町岳陽高校について、新しい高校を市民が支援する体制ができないかとの質問に対しては、新校を地域に根付いたより良い高校に育てていくため提案や要望を行う組織として平成20年に発足した「よりよい高校の在り方を考え合う大町市民会議」を母体として今後、大町・大町北両校、同窓会等の関係者とも協議し、新たな視点から新校を支援する組織として再編することを検討したいと答弁した。

また、大町岳陽高校については、この他にも国際化のための教育の支援についての質問がなされた。

この質問には、新校の教育目標の1つに「国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともにその将来を担う人間を育成する」との目標が掲げられており、そのための教育活動として、国際的な学校間交流と海外留学生の受入、国際的なボランティア活動、英語スピーチコンテスト等を行うことが明らかにされたことから、今後これらの活動を実施する上でどのような課題があるのか、どのような支援が必要なのか市民参加と協働の視点から検討して参りたい旨答弁した。

次に、市民の自主的な文化・芸術・スポーツ活動について、市としてどのような応援ができるかとの質問については、市民の自主的な文化、芸術活動は、今後のまちづくりを展望する際、極めて重要な要素であるとの認識のもと、その取組みが継続的な活動につながるよう市として積極的に連

携を図り、県の施策を活用するなど、財政的支援を含め様々な面から支援して参りたいと答弁した。

学校教育関係では、今後の大町市における小中一貫校のあり方と小規模特認校について質問がなされた。

小規模特認校については、美麻小中学校に続き、来年度から八坂小学校、八坂中学校においても、小規模校のメリットを活かし、課題のある児童生徒を積極的に受け入れ、全市的な教育課題の解決の一端を担うため、通学区を定めない特認校としたこと、小中一貫校については、今後、全国における小中一貫教育研究校などの成果や課題、また、国において検討が進められている一貫校の法制化などを注視しながら小中連携教育の充実を図ってまいりたい旨答弁した。

この他、発達障害児支援教育の現状と課題、子どもたちの読書活動の推進等について質問がなされているが、お手元に答弁内容の資料をお示したので後ほどご覧いただきたい。

- 3 その他であるが、私が市内小中学校全校を訪問して学校教職員と懇談した際、出された主な質問や要望とそれに対する回答を取りまとめたのでご覧いただきたい。

内容をいくつか紹介すると、まず、匿名性を担保した学校評価、授業評価を実施するに至った理由に対する質問については、県教委の方針として近い将来匿名性を担保した評価の導入が見込まれるので、そのメリット・デメリットについて検証するため試行的に実施した旨回答した。

次に、朝練習をはじめとした、中学校での部活動の取り扱い方針はどのようになっているかとの質問については、校長を経由し教育委員会としての方針を示してあるので、その原則で取り扱いをお願いしたいこと、保護者へは教育委員会としても周知し協力を求めていくことを説明した。

この他、加配の継続配置など様々な方面から多岐に渡り質問要望がなされているので、その内容は後ほど資料をご覧いただきたい。

次に、就学相談委員会からの答申についてである。

本年6月に就学相談委員会に諮問した29名の来入児童の就学について、12月12日に結果の答申がなされた。就学相談委員会では2回の全体会と6回の委員会を開催し、検討を行い、特に相談にあたっては、面接調査や諸検査を重ね、保護者の意思を十分尊重して審議した結果であると報告を得ている。

なお、在学児童生徒の就学相談については、現在も相談が継続しているので、全員の判定が終了したところで、委員の皆さんにご報告申し上げます。

藤井委員長

教育長報告があったが、質問、意見があったらお出しいただきたい。

就学相談委員会からの答申についてであるが、それぞれの児童に個別具体的な支援が必要となり、中には加配教員の配置を要するケースもあると思われるがどうか。

荒井教育長 ケースによっては、新年度の学級編成や市費負担支援員の配置に影響が生ずると考えている。市費による加配については、市当局に一定の理解を得ているところであるが、厳しい状況である。小中連携した加配の配置など工夫して、効率化ができないか検討して参りたい。

川上委員 教育長報告には特になかったが、大町市文化資源活用ビジョン策定に係る市民文化会議の進捗状況を聞きたい。

沢口課長 市では現在、文化資源の活用及び文化の振興を図るための計画である大町市文化資源活用ビジョンの策定を進めているが、ビジョンをできるだけ具体的で実効性のあるものにするため、市民文化会議を設け、文化関係者はもとより、広く市民から意見を求めている。

第1回の市民文化会議は、11月22日に開催に開催され、約50人の文化・芸術に関心のある市民とワークショップを実施したところである。

具体的には、大町にある文化資源の再発掘や活用方法、文化活動を実践する上での課題などについて話し合いを行った。なお、この文化会議は、今後3回開催する予定である。

藤井委員長 教育長報告に、文部科学省主催の地域と共にある学校づくり推進フォーラムがあったが、どのような内容であったか。

荒井教育長 学校が地域と一体となって子供たちを育む、地域とともに開かれた学校づくりの充実方策について、教育委員会・学校関係者等により研究協議がなされたものである。

なお、文科省の初等中等教育局長のあいさつに、特色や特長のある学校づくりを推進することで、地域振興や地域活性化、人口増施策にも繋げていきたい旨の話があった。

従来、義務教育は、全国平準均質に実施されるべきものという考え方から、一步踏み込んだ考えが示されたものと感じたところである。

また、コミュニティースクールは平成28年度までに全国で3,000校指定したいとのことであり、これに係る予算について現在折衝中とのことであった。

藤井委員長 次に報告事項に入る。報告第9号区域外就学の承認について審議する。事務局からの説明を求める。

勝野課長 資料に基づき説明。

藤井委員長 承認することとしてよろしいか。

全委員 よし。

藤井委員長 それでは、本日付けで承認する。次に議事に入る。議案第43号平成26年度一般会計補正予算第7号について議題とする。説明を求める。

橋井教育次長 資料に基づき説明。

藤井委員長 本議案について質疑はあるか。ないようである。ここで、議案第43号を採決したい。議決することとしてよろしいか。

全委員 よし。

藤井委員長 それでは、本日付け議決する。次に連絡事項に入る。まず、当面する日程について事務局から説明を求める。

竹内課長補佐 資料により当面する日程について説明。

藤井委員長 よろしいか。

全委員 よし。

藤井委員長 次に、次回以降の教育委員会の日程について、提案を求める。

竹内庶務係長 1月の定例会については、以前決定したとおり1月28日庁議室において開催したい。

 2月の定例会については、2月16日の開催を予定していたところであるが、当日、県教委が懇談会を持ちたいとの意向であるので2月20日に変更をお願いしたい。

 次に3月上旬、教職員の人事異動の内示が予定されることから3月8日に臨時会の開催をお願いしたい。

藤井委員長 1月定例会、2月定例会及び3月臨時会の日程について提案があったがいかがか。

全委員 よし。

藤井委員長 それでは、そのように扱われたい。以上で本日用意された、会議事項はすべて終了した。

 全体を通じ、何かあるか。

川上委員 サッカーの地元チームである松本山雅フットボールクラブが今般J1に昇格したことは記憶に新しいところである。これを機会に大町市は、松本山雅F.Cのホームタウンにエントリーすべきと考えるがいかがか。

 ホームタウンになるメリットとしては、例えば学校では、松本山雅の選手によるサッカー教室の開催が期待できる。また、体育振興の面では、現在、子どもたちに野球をしのぐ人気のあるサッカーを、さらに振興させる効果があると思われる。

 さらに、松本山雅のエンブレムはライチョウを用いていることから、山岳博物館との協働が考えられる。

 このほか、ホームタウンイベントにより観光の振興にも活用できると予想されるところであり、時機を逸することのないよう対応を求めたいが、いかがか。

橋井教育次長 先日、この件で松本山雅F.Cの社長来庁し、市長と面会したところである。

 私も松本総合球技場のアルウィンに実際に試合を見て、応援する地域の盛り上がりを感じてきたところであるが、出資については、まず地域の皆さんの合意形成が必要と思われる。

 現在、大町市内に松本山雅F.Cの後援会を組織する動きもあるので、しばらく様子を見たいと考える。

荒井教育長 松本山雅F.Cは、スポーツを通じた様々な活動を展開しており、巡回指

導やイベントを通して、地域社会の活性化と地域に根ざした活動を展開していると聞いている。

しかし、ホームタウンに申請するには、相当額が公金の支出が必要であり、それには十分な議論と同意が必要である。

今後、選手を招くなどにより、松本山雅FCと市民との交流が深め、近く発足が予定される後援会活動に大きな盛り上がりを見せるなど、その機運が高まるまで様子を見たいと考える。

藤井委員長

他に意見はないか。ないようである。それでは、以上をもって、第12回定例会を閉会としたいが、よろしいか。

全委員

よし。

藤井委員長

閉会宣言 午後3時00分

以上をもって第12回定例教育委員会を閉会とする。